

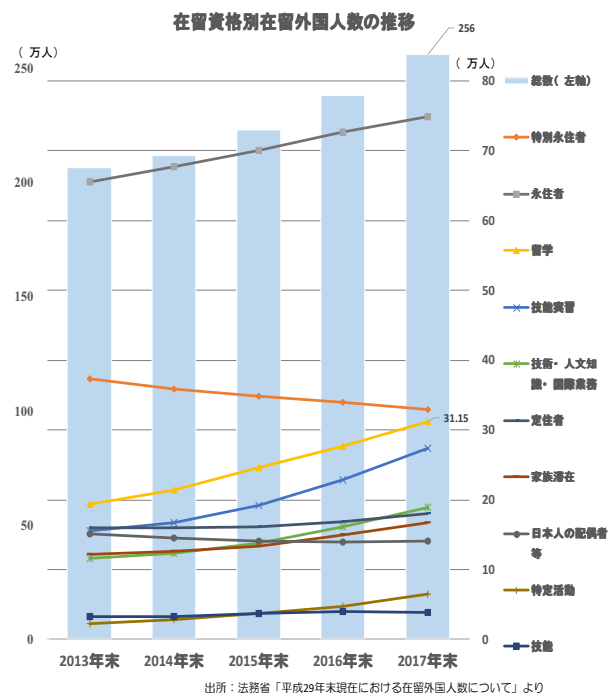
世界第4位の「移住者大国」日本

◆2008年設定の「留学生30万人計画」を17年末に達成

法務省による資格別在留外国人数ではグラフのように、17年末の留学生は31.15万人（右軸）となり、08年に作成された日本への留学生を20年までに30万人とする「留学生30万人計画」の目標を上回った。留学生数が12万人程度の当時としては、意欲的な目標だったといえる。

07年当時は、日本への留学生総数12.38万人のうち1位が中国の7.28万人（占有率54.8%）、2位韓国1.89万人（同15.2%）、3位台湾0.53万人（同3.7%）で、留学生の92.2%がアジアからの留学生だった。

17年には1位が中国の10.73万人（同41.2%）、2位ベトナム6.17万人（同22.5%）、3位ネパール2.15万人（同8.1%）と構成が変わっているが、アジアからの留学生が93.3%を占めている点は、あまり変化していない。



◆17年の海外から日本への移住者数43万人は既に世界第4位に

日本政府は新たな在留資格を設けて、外国人労働者の受け入れを拡大する方向だが、経済協力開発機構（OECD）が毎年集計している年間の外国人移住者のデータでは、17年の海外から日本への移住者（90日以上滞在予定）数は43万人（前年比9.2%増）で、1位ドイツ172万人、2位米国118万人、3位英国45万人に次いで世界第4位だ。グラフの示す17年の在留外国人総数256万人（左軸）は人口比1.8%で、ドイツ14.8%、米国15.3%、英国13.4%に比べると低い。ただ近年の移住者数増加に伴い、外国人の受け入れに関して長期的視野に立った新たな法整備が必要なのは間違いないだろう。

【森山博之】